令和5年度福島区区政会議 第1回市民協働部会 会議録

1 開催日時 令和5年9月14日 18時30分から19時40分

2 開催場所 福島区役所 6階 会議室

3 出席者の氏名（敬称略）

[委員]

大船 一美（議長）、浅香 信夫、岡田 勇、久保 優治、塩津 寛、廣瀬 修一、
松井 敬子

[オブザーバー]

猫島 義明、矢山 英夫

[助言者]

太田 勝己

[区役所]

深津 友剛（区長）、北野 紀子（副区長）、谷口 浩文（企画総務課長）、澤田 卓士（企画推進担当課長）、三原 誠（市民協働課長）、坂井 昭広（地域活動支援担当課長）

4 委員に意見を求めた事項

- （1）令和5年度福島区政の取組みなどについて
- （2）その他

5 配布資料

添付のとおり

谷口： では皆様、定刻になりましたので、ただいまから令和5年度福島区区政会議第1回市民協働部会を始めさせていただきます。本日は皆様ご多忙のところご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。本日の進行役を務めさせていただきます福島区役所企画総務課長の谷口でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは早速ですが、開会にあたりまして深津区長からご挨拶申し上げます。

深津： 皆さん、こんばんは。区長の深津でございます。本日はお忙しいところ、そして夜分お疲れのところ、福島区区政会議市民協働部会にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。本日は令和5年度の区政会議、第1回市民協働部会でございます。令和5年度の福島区の主な取り組みについて中心にご説明をさせていただきたいと思っております。また皆様ご存じのことかと思っておりますが、この会にお集りのメンバーにつきましては、委員の皆様の任期が9月の末日となっておりますことから、このメンバーでご議論いただく機会は今日で最後となっております。非常に残念ではございますが、今夜はそのような意味合いも含めまして福島区政に対するご意見やご要望だけでなく、福島区として今後取り組むべき課題、それから具体的な施策に関するアイデアなど、皆様からたくさんのお声を頂戴できればありがたいと考えております。私ども、福島区役所といたしましては、これからもあらゆる機会を捉えまして区民の皆様の声に耳を傾け、今後の区政の運営改善に生かしてまいり所存でございますので、本日もご出席の皆様の忌憚のないご意見を頂戴できますようお願いいたします。簡単ではございますが冒頭の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

谷口： 本日の市民協働部会ですが、委員の定数7名で、現時点で全委員の方にご出席をいただいております。「区政会議の運営の基本となる事項に関する条例」に定める「委員定数の2分の1以上の出席」を満たしており、会議が有効に成立していることをご報告させていただきます。

次に助言者として、大阪市会議員の方にご出席いただいておりますのでご紹介させていただきます。太田議員でございます。

太田： よろしく申し上げます。

谷口： なお、広田議員につきましては遅れているようですので、またご到着次第、ご紹介させていただきます。

次にオブザーバーとしてご出席いただいております皆様をご紹介させていただきます。大阪市福島区社会福祉協議会会長、矢山様でございます。

矢山： よろしく申し上げます。

谷口： 大阪市コミュニティ協会福島区支部協議会会長、猫島様でございます。

猫島： よろしくお願ひします。

谷口： お忙しい中ご出席いただき、誠にありがとうございます。

続きまして配付資料の確認をさせていただきます。「令和5年度 福島区区政会議第1回市民協働部会」の次第以下、資料1としまして「福島区区政会議市民協働部会委員名簿」とその裏面に「座席表」。次に資料2として「福島区区政会議(第1回全体会)でいただいたご意見と対応方針一覧」。資料3として「令和5年度福島区の主な事業(市民協働部会)」。資料4としまして「令和5年度福島区運営方針」。最後に資料5としまして「令和5年度福島区運営方針 経営課題ごとの取組」でございます。配付資料は以上でございますが、不足等はないでしょうか。

次に区政会議及びその会議録は、条例により公開・公表が基本と定められておりますので、ご了承のほどよろしくお願ひいたします。また、本日撮影の写真は、区役所の広報に使用させていただくことがありますので、併せてご了承いただきますようお願いいたします。

なお、議事録作成の関係上、ご発言の際はマイクをご使用いただきますようによろしくお願ひします。

それでは、ただいまより議事に移らせていただきます。以後の議事の進行につきましては、大船議長にお願ひしたいと思ひます。大船議長、よろしくお願ひいたします。

大船： 大船でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

今日は冒頭区長からお話ございましたように、このメンバーでの会議は今日が最後ですので、是非皆様方にご発言をお願ひしたいと思っております。

それでは、議題につきまして事務局よりご説明をいただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

澤田： それでは、私から令和5年度福島区政の取組などについて、お手元の資料にそってご説明いたします。お手元の資料2をご覧くださいませでしょうか。資料2は、令和5年度福島区区政会議(第1回全体会)でいただいたご意見と対応方針一覧となります。今年6月に開催させていただきました第1回全体会でのご意見につきまして、本日は市民協働部会に関する事項につきましてご説明させていただきます。

資料の中の番号1番、山口委員からいただいたご意見です。ご意見内容は、不審者に追いかけられたり、実際に襲われて被害に遭われている人もいます。その時の出来事を誰にも言わないで大人になり、苦しんでいる人がいると聞くので、経営課題2「安全・安心なまちづくり」の防犯意識の向上に関する取組として、犯罪に遭ったときには人に話していいというよ

うな意識の啓蒙活動も含めたほうがいいのではないか、というご意見を頂戴しました。全体会の中では、広報を活用したり、また警察とも相談しながら、今後意識の啓蒙について取り組んでいくと説明させていただきました。改めまして一番右側、対応方針です。担当部署は市民協働課の地域活動支援担当となります。対応方針ですが、「犯罪に遭ったときは人に話していい」という意識の啓蒙活動」につきましては、毎年「犯罪被害者等基本法」の施行日である12月1日以前の1週間(11/25~12/1)が犯罪被害者週間として定められており、大阪市としても令和2年4月に施行した条例に基づき、犯罪被害者支援制度を本市ホームページや各区広報誌に掲載し、周知を図っているところです。福島区でも関係機関である警察署、保護司会へ支援制度の周知を行ってきました。引き続き広く区民の皆様にご理解いただけるよう、犯罪被害に遭われた方の適切な支援に向けて取り組んでまいります。ということで、今後もそういった取組を進めてまいりたいと考えております。

続きましてページをめくっていただきまして、3番になります。中村委員からいただきましたご意見です。南海トラフ巨大地震の被害想定には津波被害は含まれていないように思われる。また、発災曜日、時間等により被害状況は様々に変わると考える。それらについて区役所としてはどう考え、どのような対策を検討しているのか、というご意見を頂戴しました。会議の中では、調べて改めて回答しますということで、その結果、右側の対応方針。こちらは、市民協働課の市民協働担当の回答となっております。現在の被害想定は、平成25年10月の大阪府防災会議で公表されたものであり、津波被害も含めて想定されています。津波被害については、早期避難行動の有無によって2パターンで想定しており、また発災の時間帯は地震火災が最大となる「冬18時」を想定しています。この被害想定は令和6年度に見直しが予定されていることから、新たに策定される被害想定を踏まえ、より効果的な防災訓練の進め方を検討してまいります。

続きまして、同じく5番目、中村委員からのご意見です。福島区には避難所が設定されているが、調べたマンションの避難所には「地震×」「津波○」という表示がある。津波は地震に伴って発生するものであり、地震では避難者を受入れないのに、津波ならば受入れるという想定はおかしいのではないか。津波が発生するかもしれない、というタイミングで避難できることが分かるように表示すべきである、というご意見を頂戴しました。こちらでも会議の中では、調べて改めて回答するとしております。対応方針ですが、「災害時避難所」ではなく、「津波避難ビル」についてご意見をいただいたものと思われま。す。「津波避難ビル」は津波が発生もしくは発生する恐れがある場合に一時的に避難できるように区役所と協定を結んだ建物のことをいいます。この「津波避難ビル」については、一部民間の情報サイトにおいて「地震×」「津波○」と記載されている場合がありますが、これらは津波から一時的に避難できることを表現したものと考えられます。一方、当区ホームページでは、避難の内容に応じて「災害時避難所」、「一時避難場所・広域避難場所」、「津波避難ビル」を区別して掲載させていただいております。また、外国人住民への周知等にも留意する必要があることから、津波避難ビルへのピクトグラムプレートの設置や、防災情報にかかるホームページに

において、やさしい日本語による表示についても対応しているところです。ご指摘の民間の情報サイトの表記は当区では改善できませんが、当区ホームページ等では今後とも区民の方にとって分かりやすい内容を掲載するよう努めてまいります。

続きまして次のページ、番号6番、こちらも中村委員からのご意見です。津波が発生した際にはたくさんの住民が亡くなる可能性があるが、遺体安置所はどこを想定しているのか。その場所が水浸しになっている場合はどこに安置するのか。会議の中でのお答えとしましては、遺体安置所は区民センターを想定している。また、区民センターに安置できない場合は、スポーツセンターに安置するとお答えいたしました。改めましての対応方針ですが、遺体安置所という特殊な対応のために区民センターを想定しています。浸水が引いた後、清掃をしたのち収容することとなりますが、被災状況によって開設し難い場合は、警察や消防と協議、連携して他の施設を検討することとなります。こちらの資料ですが、前もってお送りしました資料の中では、「清掃したのち収容する」の部分が「除染、清掃したのち」と除染という言葉が入っていたのですが、除染というのは放射能の対応ということで、今回の対応の内容には入っておりませんので資料を削除・修正させていただきましたのでご了承願います。

続きまして7番目、こちらも中村委員からのご意見です。大阪府で津波が発生した場合、津波被害を被るのは西の8区である。そのため、その8区の区長で津波対策協議会を作ったり、市議員の方々が超党派で津波対策協議会を作って取り組んでほしい、というご意見を頂戴しました。会議の中では、津波が発生した際、大阪市の西側の区に被害が大きいことは想定しており、どの区に避難することが合理的であるかと学識経験者を交えて検討していると回答しております。それに関しての対応方針ですが、市危機管理室及び市内西側8区で構成する「湾岸部津波対策の推進にかかるワーキンググループ」において、地震や津波の被害想定及び対策について取組を進めています。現在、大阪府の被害想定見直しを踏まえた対策や大阪・関西万博の開催を見据えた対策等について協議を進めているところです。

以上、いただいたご意見についての対応方針等を読み上げさせていただきました。これら回答に対するご質問等についてはまた後ほどいただければと考えております。

続きまして資料3をご覧くださいませでしょうか。こちらは、市民協働部会の令和5年度福島区の主な事業の資料となっております。1ページ開いていただきまして2ページ目です。こちらは全体の状況となります。

令和5年度は新型コロナウイルス感染症が5類感染症に位置づけられたことにより、区役所や地域においても様々な事業を実施できるようになってきています。また、「大阪・関西万博」の開催まであと1年半であるので、様々な事業の場を活用して万博への機運を盛り上げてまいります。今回の部会では、今年度の運営方針にかかる各事業の進捗状況を報告します。本報告内容に加え、令和6年度の福島区事業計画案の策定に向けて、委員の皆様のご意見をいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

では、次のページから具体的な事業内容をご説明いたします。3ページ目です。人と人と

がつながるまちづくり。経営課題 1 番になります。大勢の住民が集まる「盆踊り」「夏まつり」等のイベントや飲食と会話を伴う「ふれあい喫茶」「高齢者食事サービス」等、新型コロナウイルス感染防止策を継続しながら、地域活動が円滑に再開できるよう支援を行ってきました。また、「地域活動協議会」の認知度向上を図るため、活動等の情報を区のホームページや広報誌等で PRするとともに、区役所 1 階の広報専用ラックへのチラシ配架、モニターなどの電子広報媒体を活用し放映しています。さらに、若年世代にも気軽に地域活動に参画いただけるよう、各地域における ICT を活用した情報発信の支援に努めています。町会加入の促進については、福島区まちづくりセンターと連携して地域の取組を支援するとともに、区役所の窓口においても転入者へのチラシ配布をするなど町会の魅力発信に努めています。また、マンションの住民の町会加入促進、これは地域活動への参加という形になりますが、の好事例を広報誌で紹介するなど、引き続き加入促進支援に取り組んでいきます。

続きまして次の 4 ページは、経営課題 2 番です。安全・安心なまちづくり(その 1)。令和 4 年度から避難所に参集した人が素早く行動できるように避難所開設の手順書や備品等がまとめられた避難所開設キットを各小学校に配備しているところです。この避難所開設キットを使った、より実地に近い形での訓練を実施しています。さらに、避難に際して支援を要する方を地域で支える「個別避難計画」の作成について、各地域と連携して取り組んでいるところです。また、現在マンション防災の出前講座を実施しているところですが、今後専門家の意見を踏まえ、内容を充実していきます。また、小学校、中学校では、消防署や福島区社会福祉協議会と連携して、紙スリッパでのガラス歩行訓練や AED を使用した救命講習などの防災授業を実施しています。その他、8 月の 1 日~3 日に 2 泊 3 日で「中学生体験学習事業」を実施し、3 中学校の代表生徒 9 名が宮城県において体験を通した防災学習・SDGs 学習を行いました。

続きまして次の 5 ページ目です。安全・安心なまちづくり(その 2)といたしまして、防犯カメラの設置については、データの取り出しが迅速にできる Wi-Fi カメラへ各地域毎年 1 台ずつ更新するなどの改善を進めるほか、街路防犯灯も明るさが長時間維持できる LED 電球のものを設置するなど、街頭犯罪の減少や抑止に取り組んでいます。特殊詐欺被害防止の活動について、令和 4 年 12 月から自動通話録音機の無償貸与事業を実施しており、令和 5 年度は案内チラシを班回覧するなど広報周知を行い、80 件貸与しました。こちらの台数は 7 月末時点のものとなっております。また、最近見かける機会が増えた電動キックボードの安全啓発については、本年 7 月以降ホームページにて広報活動を行っております。今後とも福島警察署、福島交通安全協会と連携して、交通事故のない福島区にするため広報啓発に努めます。

では、最後 6 ページ、魅力あふれるまちづくりです。新型コロナウイルス感染症の感染状況が落ち着きつつある中、感染対策を行った上で「のだふじまつり 2023」を開催し、多くの方に参加いただきました。今後も「ふくしまてんこもり 2023 秋」をはじめとして、区の魅力である「のだふじ」「グルメ」などを区内外に発信できるような各種イベントを開催し

ていきます。花とみどりのまちづくり事業については、緑化リーダーの皆様ご協力の下、実施しております。また、広報誌で緑化リーダーの活動を紹介したところ、関心を持たれた区民から活動に参加したいとお声をいただいております、今後も担い手確保に取り組んでまいります。

資料4と5につきましては、今年度の運営方針ということで参考につけさせていただいておりますので、よろしければご一読いただければと思います。

区役所からの事業説明は以上となります。

大船： ご説明ありがとうございます。それでは、今ご説明いただいた資料2、資料3に基づいて、是非皆様方のご意見、ご質問等いただければと思います。恐れ入りますが、ご発言いただくときには手を挙げて、お名前を言っていただけて、ご質問、ご相談等いただければと思います。どなたか、ご発言ございませんか。岡田さん、お願いいたします。

岡田： 福島連合の岡田です。この「人と人がつながるまちづくり」ということなのですが、今年度も盆踊りをしまして、町会とお住いのマンションの町会未加入の方々が大勢来られて盛大に行われたのですが、結局手伝っている者は地元の町会加入者であって、盆踊りが楽しかったかという、疲れだけが出て楽しいことはない。例えば、自転車整理防犯のところは、学校の外に出るし。受付の方は受付ばかりで会場を見てないなどがあって、喜んでくれているのは町会未加入の方ばかりで。この盆踊りがこのままつながって、みんなが、手伝う方も楽しめるようになればいいと思うんですけど、その辺が難しいというか、どうしたらいいか迷っているところなんです、ほかの地区ではどうなのでしょう。

大船： いかがでしょうか。皆さん、同じような思いでしょうか。玉川の浅香さん、どうでしょうか。

浅香： この質問に答えを出すのは難しいです。やはり参加しておられる方の気持ちの持ち方と、その中での自分の役割みたいなものをどのように反映していくかだと思うので、人それぞれかと思うのですが。

大船： ありがとうございます。公募委員の久保さん、いかがでしょうか。

久保： 難しいですね。やはり多くの人が集まって公的なというか、それが楽しいことであれ、やはり運営されている方々がいらっちゃって、参加されている方に楽しんでいただくのは致し方ないのではないかと。仕事ではないので、皆ボランティアでされているので、できれば自分も楽しみたいという気持ちも重々分かるんですけど、参加いただいた方が喜んでくれる顔を見て、喜んでいただくのが一番いいのではないかという気がいたします。

大船： 致し方ないところでしょうかね。ほかの地域はどうでしょうか。海老江東、塩津さん、どんな具合でしょうか。

塩津： 海老江東では、ちょうど海老江東小学校が今増築工事中で運動場が使えません。ここ3年間、運動会とか盆踊りは全部休止しておったのですが、今年やろうということで、福島連合の中では一番最後の8月27日の日曜日に場所を今の海老江東コミュニティセンター横にあります海老江東公園、イオンの隣で開催したのですが、ものすごい人でした。場所がよろしいんでしょうか、ちょうど野田阪神の駅から大淀方面に行かれる方が、これは何だろうと思って来られたのが一つ。8月の27日ですから夏休みも終わりました、お子さんが家に帰ってきていると。明日から学校ということで、すごい人でした。それはそれで結構なんですけど、ちょうどお隣にジオという大きなマンションができて、そこの方も来られて、私は受付をやっておりまして何度か質問されたのですが、こんな取組ってあったんですね、と。住民の方は意外と知らない方がおられます。だから、この後でいろいろ書いておられるんですけど、マンションの住民の方にもPRの機会は、ちょうどいい機会だったのですが、なかなかそれに対応する時間もなくて。先ほど岡田さんがおっしゃったように、世話役の方はかき氷を作ったり、ジュースの販売をしたりする方で忙しくて、いろんなPRの機会がなかったと。ああいう機会でももちろんつながりというのはいいのですが、町会の活動はこういうものだとPRする機会によろしいのではないかと思いました。

ここで、PRの機会というのがなかなか町会の役員さんには不慣れだと思います。そういう点で役所からもサポートしていただければありがたいと、今になって思っております。来年の課題になるかと思えます。

大船： 今、区のほうからご支援をという話があったのですが、その面で区役所からご発言いただける方いらっしゃいませんか。

坂井： お世話になっております。地域活動支援担当の坂井でございます。今おっしゃっていただいたことは、本当に難しい課題だと思っています。ひいては、担い手がやはりないところにつながっていくということで、そこに対して良薬というものもなくて、コロナもあって、なかなか切実な問題と思っております。今後、区役所としては地道に若い世代の方であったり、町会などの地域団体に加入していただける方ということで人材を探していくことになると思っています。そのためのきっかけづくりとしましては、防災や子育ての取組みを切り口として、また、いろいろ地域活動を知っていただくため、参加していただくための広報周知を積極的に展開させていただきたいと思えます。コロナも少し落ち着いてきたということもございますので、各地域の活動も通常どおり実施されていくものと思っております。各地域のイベントの場でも地域の皆様の協力をいただきながら町会の加入促進や、ま

た地活協の認知度もまだまだ低いところもございまして、担い手も含めた周知をさせていただいて、担い手の確保につなげていければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

大船： 久々のイベントですので、どこもたくさんの方がお見えになって大にぎわい。だから先ほどおっしゃられたように、お世話している側は楽しむ間がなかったと。非常に辛い話ですけども。吉野の廣瀬さんはどんなでしたか。

廣瀬： 吉野の廣瀬です。私どもも今年も盆踊りさせていただきましたけれども、正直に言っている役員、後ろに連長おられますけど、役員は全く楽しんでいません。役員を手伝っている人の中に青対協、子ども会の皆さんおられますけど、全く楽しめない。ご飯を食べる暇もない。今年夕飯はどうするかという話になったときに、おにぎりでもいいという話になったんです。座って食べている時間がないと。ただ、私のことを言いますと、私も手伝ってから 10 年くらいたつんですが、PTA から手伝って一時離れたんですけど、私の係わっている活動として太鼓などの世話役をやっていまして、そこで町会に入っている若い子、櫓組みとか準備の時に手伝いに来てくれた人を勧誘したんです。太鼓に入ってくれと。太鼓に入った以上は最初はいいいよ、いいよと言っているんですけど、1 年ぐらいたつと盆踊りの手伝いは絶対に来いという縛りをかけて。その子たちがまた、この人いいんじゃないかと。そういう人が町会に入ってきてくださっている例もあります。

もう 1 点は、次、11 月 3 日にみかん狩りがございましてね。あれを各連合からの補助金とかを出して、実際の金額よりかなり抑えられていると。4 人家族で来たら、1 年間の会費がチャラになる。プラスになる可能性がある。そういうことも私は太鼓長やっていますので、そういうものもありますよ、ということを各町会さんの会議のときに言って、そういう切り口で集めてくれないかと言って、それは功を奏してないんですけど、町会の加入数を上げるのにはいろんな切り口があると思うんです。それを各地域の委員さんが知恵を絞ってやっていけば、もっともっと上手いことなるかと。一番最大は盆踊りだと思います。賛否両論ありますけど、設営撤去はすごくしんどいです。今年は熱中症になった人も実際にいました。でも、それを踏まえてみんなでやるのが、周りの人が見えていますので、若い人、PTA も巻き込んでやっていますが、同じように町会入って一緒にやらないかという切り口で僕は接してきました。以上でございます。

大船： 今町会加入率のアップという話が出たんですけど、新家の松井さんのところはいかがでしたか。

松井： 新家の松井です。新家女性会の会長をさせていただいています。盆踊りにつきましては、新家は皆様と違って公園です。土曜日にしたんですけど、始まる直前に雷が

鳴って、それで雨の中、お客さんや区役所の方も来ていただいて、やり始めたら雨だからといってやめられませんから。でも皆さん雨の中お越しいただきました。下もびちょびちょの中で無事させていただいたんですけど。今回、青対協の人がいろいろ考えて、子どもさんに光る首輪、あとミルクせんべいとポップコーンとかき氷。青対協さんが今回初めてしてくださって。今までは焼きそばがあったんですけど、それをしてくれることができなくなって、いろいろ考えてくださったり。女性会はふれあい喫茶で作っているお寿司を皆さんに食べていただいたりして。学校だと雨が降ったら校舎に行けますよね。でもテントも少ないので、逃げるところもなく。荷物もごちゃごちゃで、自分たちの荷物も地面に置くわけにもいかないし。もっと整理整頓できたらよかったですけど。5年ぶりだったんですよ。前のときも雨で1回新家は中止になったので、皆さんより1回開催が少ないんです。なので、段取りがちょっと悪かったりしたんですけど。盆踊りの曲に関しては、新しい曲とか古い今までの曲があって、結構皆さん、盆踊りの民謡の人は喜んでくれていたようです。櫓の組立ての前日から、ほかから、吉野の方も手伝いに来てくださって。今の課題は、次の地域活動協議会の担い手というか、皆さん、会長方も80歳を越したりしているので、どうなるのか。そのところが今は心配です。皆さん、無事で終わったという感じで。開催できてよかったと思いました。以上です。

大船： ありがとうございます。

先ほど区の方からご説明いただいたんですけど、資料3、令和5年度、これは9月で前半が終わるといっていますが、それに向けてご意見、ご要望ございましたらお聞かせいただきたいと。岡田さん、お願いいたします。

岡田： 9月終わるんですけど、次も引き続き私は受けることになったんですが、その前にもっと若い人を委員にどうかという話があったんです。ところが、皆さん年配の人ばかりだったので、ここに若い人が1人はかわいそうだと。だから、若い人をある程度、1人や2人では意見も言いにくいので、例えば10地区ある中で5地区は今年は50代くらいまでとして、2年ごと交代で。今年はこの上福島から野田地域まで。だけどそれ以外のところは、50代以上の方と。でないと、先の短い者がこれからの区のことを語っても仕方がないし。もっと若い人が、これからこの福島をどうしようかというところがあるので、その辺を考えていただいたらと思うのですが、いかがでしょうか。

大船： 今の意見について、ほかの地域はどうでしょうか。塩津さん、お願いします。

塩津： おっしゃるとおりだと思います。今部会は、この市民協働部会と本部会議と保健福祉・総務部会です。そういう中身を離してやっていますが、例えば青年部会とか、特に今までの町会のイメージは年寄りの方が楽しむばかりやと。これはあまり良くないと思い

ます。やはり若い方が参画できるように、例えば青年部会、あるいは年齢制限を設けた中で
の部会構成にされるのも一つの考え方ではないかと思えます。

大船： ほか、ご意見どうですか。いろんな方に発言をしていただくのはとてもいいことで
すね。浅香さんお願いします。

浅香： 今、国会議員などでもいろいろ出ているんですけど、女性の起用をフィフティ・フ
ィフティくらいにもっていくことも大事ではないか。今、国会で一番注目を集めている話題
だと思うんですけど。そういう意味では、僕らも高齢者ばかりでも駄目だし、若い人も男性
ばかりでは駄目だし、やはりいろんな人を入れられるシステムが大事だと思います。

大船： 新家の松井さん、どうですか。こういう話が出ていますけれども。

松井： 9月で任期は終わりですが、結構女性会のほうも忙しくて。連合会長さんが次の人
を探してくださったんですけど。もう一つの会議だったら女性会の女の人はいたのですが、
ここでは私1人なのでちょっと寂しかったです。また、女の人を入れてやっていただけたら
いいと思います。

大船： 確かにここだけ写真を撮りましたら、女性はお1人ですもんね。バランスが悪いで
すね。

前半は終わったんですけども、それ以外に来年に向けてこんなことをやってほしいと
いう区側へのお願い事項等ございましたら、それも併せてご意見いただければと思います。
今の路線でいいのではないかということでしょうか。

岡田さん、お願いします。

岡田： 今、私どもの福島連合もマンションがどんどん建っています。人口は増えているよ
うですが、地域の町会の加入者は減る一方なんです。ここで人と人のつながりといっても、
非常に難しいです。今日もマンションの若い方とお話しすることがあったんですけど、マン
ションの方と地域のつながりと役所的には仲良くと言われるんですけど、これをどう思い
ますかと聞くと、マンションの中で同じフロアの人でも顔を合わすことがないと。マンショ
ンの中の自治会もあるけど、役員会に出ても欠席が多かったり。だから、これは本当に難し
いと思います。我々としては、向こうさんから声をかけていただければ、いくらでも対応す
るんですけど。例えば、この間の盆踊りのことでもポスターをマンションに貼らせてくださ
いと言ったら、マンションの管理組合に相談してからでないと言返りできません。こちらは
お金儲けでしているわけではないのに、そう言われたりすると大変ですね。地域で防災訓練
をいろいろします。それは町会が各班に回覧で回します。でも、マンションには配ってない

です。それをマンションにも一緒に配らせてもらうか、できればもう少し地域とのつながりもできるのではないかと思います。地域のお手伝いをする方がどんどん亡くなってきて、今までなら PTA の方もよくお手伝いいただいたんですが、今うちの連合でも PTA の会長がくじ引きだったと聞いたんです。決まりましたと案内状が来たら、副会長が 5 名なんです。我々の頃は副会長は 1 名か 2 名だったんです。それが 5 名です。副会長 5 名、会長 1 名で 6 名です。何かのときは、6 人のうちの誰かが出てこれるだろうという話なんです。明日も青対協の会議があるんです。ところが、今日もメールで PTA は誰も参加できませんと。6 人も副会長がいて、誰も出ないと。

今は何でもメールや LINE で案内をしますので、行事があってもすぐに断ったりするんです。私は言うんですけど、1 回断られたら、1 回電話をかけると。困っているから助けてくれと言ったら、普通面と向かって言ったら OK してもらえることがあるじゃないですか。やはり、メールや LINE のやりとりばかりでは、なかなかうまくいかない。私は会議はみんなと顔を合わせて、こういうように意見を交換するのが一番だと思います。

それと PTA の役員が決まらないというのは、地域と関わりたくないというのが一番なんです。我々のところには PTA の OB の会があったんです。4 役をすれば、そのまま入るわけなんです。入って、今まで外へ食事に行ったり、いろんなことがあったんです。とにかく区 P に入る。そこに入ったら地域のことを世話しないといけない。それだったらはじめから入らない。もし入っても次の年にすぐにやめているんです。今年の春に OB の会もなくしてしまいました。我々の時代は PTA に入って、それから地域に溶け込んでとあるんですが、とにかく、地域と溶け込みたくない。今は LINE で友達だと言うけど、私は LINE 一つで友達という感覚はないんですけどね。スマホが発達しているいろんなことがそうやってきて、結局、人と人が顔を合わせるものがなくなってくると。これが一番の地域のつながりができないあれだと思うんです。今の若い子たちは、人と顔を合わせてしゃべったりする、それが苦手というか、できないんでしょうね。その辺が一番心配しているところです。

大船： マンション対策というの、随分皆さんのところでもおありだと思うんですけど、こんなことを、例えば区のほうで協力してもらえないかみたいなご意見はありませんか。なかなか一つの方法だけではどうにもならないことだろうと思いますけれども。

岡田： マンションの中でも自治会の役員になるのが大変ということですから。どうしたらいいんでしょうね。

大船： マンションの中に広報誌を置かせてもらっている。そうすることで、それを見て、こんな事業があるんだったら行ってみようかなということをおやりになっているところはないですか。そういうところを見かけたりするんですが。玄関に入って共通スペースに置いてある。ポスターなども貼ってある。その管理人さんとの関係があるんでしょうけど。そ

ういうところもちよこちよこ見かけたりしますので。それが実際に町会加入率につながるかどうかは難しいところかもしれませんが。いずれにしても町会加入率を何とかしないと。そういう方だけが楽しんでいるというのも何です。

岡田： それで盆踊りを、今まで受付はうちは民生さんがやられていた。いろいろ分けてやっているんです。だから、これを一度全部ひっくり返して。そうしたら、いつも受付していた人も中で楽しんでもらえる。そうしないと絶対駄目ですね。これからうちはふれあいまつりとか、いろいろあるんですが、PTAの方はPTAの方で子どもさんを連れて出て来ると。出てきても当番の人が子どもをほっておいて仕事をしているわけです。せっかく子どもと一緒に来てもらうのにそれは駄目だから、結局午前と午後に分けて。午前中はお手伝いしてくださいと。その代わりに、午後は子どもたちと一緒に。そういうふうになっているんです。

大船： 本当にご苦勞様です。いろいろご意見頂戴したところでございますが、議事という形ではこれで皆さんのお話を聞かせていただいたということでございます。ご協力いただいてありがとうございました。

あと事務局からご連絡があると聞いておりますので、マイクをそちらのほうに向けたいと思います。ご協力ありがとうございました。

谷口： 大船議長、どうもありがとうございました。委員の皆様におきましても、たくさんのご意見ありがとうございました。

それでは、議題2「その他」ということで、事務連絡をさせていただきます。委員の皆様のお手元に黄色の用紙の「区政会議に関するアンケート」と水色の用紙の「区政会議 市民協働部会に関するアンケート」という2種類のアンケートを配付させていただいております。皆様、お手元にございますでしょうか。こちらのアンケート、今から5分ほどお時間を取らせていただきまして、皆様にご記入をよろしく願いいたします。

谷口： アンケートのご記入ありがとうございました。ご記入済のアンケート用紙につきましては、机に置いたままで結構でございます。まだご記入がお済でない方は、お帰りまでにご記入をお願いします。

次に、第2回福島区区政会議、全体会議ですが、10月下旬から11月上旬に開催したいと考えております。委員の皆様のご任期につきましては、先ほど区長からもありましたように、この9月末までとなっておりますので、今回の部会で最後の参加となる委員の方もおられますが、改選後に改めて区政会議委員にご就任いただける方につきましては、改めてご案内させていただきますので、どうぞご参加のほうよろしく願いいたします。

それでは、本日助言者としてお越しいただいております市会議員の太田様から一言、ご助言や感想等がございましたら頂戴したいと存じます。

太田： 僕も海老江東で15年くらい前にPTAをやらせていただきました。そのときに盆踊りで温かいウィンナーとかやってくれと地域の先輩方から言われて、女性の実行委員の皆さんに是非やろうと言ったんです。そのときは、子どもが喜ぶんだったらやろうということ。年によって盛り上がる年と、もうしんどいからやめようという年もあります。僕はその後PTAが終わってからそのOB会。それから青少年指導員もやったり、保護司もやったり、今年から市議員もやらせていただいているんですが、肌感覚で思うのは、やはり若い人が自動的に入ってくるのはPTAしかなくて。今度若い人にこの区政会議に入っていただくことになったら、区Pに要請してみるのも一つだと思います。全員じゃなくて、1人か2人でもいいから出してくださいと。待っていますと言ったらいいと思うんです。太田もいると言っていたら、太田か、と言ってくれると思います。この間、区Pのバレーボール大会とかに挨拶に行ったんですけど、区Pの人で知っている人もいまして。会長さん同士が仲良くなっていたりもしますので、必ずしもというわけではないですけど、岡田さんがおっしゃったように福島の方は来られてなかったかな。くじ引きで決まっているというのももちろんあると思います。人にもよります。土地にもよりますけど、一つは区Pに頼むということかと思えます。

あとちょっと思ったのは、町会の加入とかPTAの人手不足というのは、市会でも委員会でもこのことを言ってみようと思います。要するに、うまみがあったほうがPTA入ってくれますので。国語、算数、理科、社会、そして小さくPTAという欄があって、通知表にそういうものが載ると。保護者は子どものためならやろうとなりますのでね。やったらやっただ、それなりに楽しいんですよね。嫌なときにやめられるようになっていることも大事で。入ったり、やめたりがスムーズなことが大事だと思います。僕らの頃はPTAに入ったら、もう一生逃げられないみたいなのところがあって嫌がる人も多かったんですけど。今はやめられるよと言って、残れる人だけ残ってもらってというのでもいいと思います。そういうことも市会で言ってみようと思います。

それから、どうしようもない部分としては、大きな時代の流れがあると思います。僕が今50歳なんですけど、小さい時は14インチのテレビが居間に1台だけあって、それを家族全員で見たんですけど、今は各部屋にテレビ。テレビどころか各人がスマホを持っている時代ですので、便利になればなるほど、人と一緒に何かをする機会が減っているし、どうしようもないかとも思うんですけど。一方でスマホを持っていてつながっている部分もあるんですね。僕は八坂神社のだんじりもやらせていただいているんですが、ホームページを作っただんじりの巡回図などをアップしますと、若い人は基本それを見てだんじりを追っかけてきてくれる。盆踊りもフェイストゥーフェイスもあるんですけど、もう一方でネットの活用も必要なんだろうと思います。

区役所で用意してくださったこの資料に書いてあったのですが、ホームページもネットなんですけど、ネットの中でもホームページというのは、膨大な情報を丁寧に整理して体系的

にやっている論文みたいなものです。そうではなくて、掲示板みたいな日常的な情報はツイッターだったり、インスタグラムだったり、そちらの媒体になってきますので、それは僕も含めてここにいる誰もできないことだと思います。会社で働いている時もそうだったのですが、大学生をどうやって引っ張ってくるかといったときに、大学生を上手に巻き込んでいく会社の社長さんが言っていたのですが、25歳になったらもう駄目です、と言っていました。22、23くらいの大学を卒業して1~2年くらいの子でないと、在校生とお友達感覚でしゃべれないんですと言っていました。いかに若い子を巻き込んでいくことが我々が思っている以上に困難かということは分かっておかないといけないのかと思います。だからこそ、若い人の意見も聞きながら、しっかり発言していこうと思っています。

また何かありましたら、個別にでもご相談いただけたら一生懸命やりますので、今後ともよろしく願いいたします。今日はありがとうございました。

谷口： 太田議員、ありがとうございました。最後になりましたが、本日お越しいただいておりますオブザーバーの方におかれまして、何かご意見、ご感想等ございましたら頂戴したいと存じますが、いかがでございましょうか。大丈夫ですね。

それでは、本日の予定につきましては、これで終了となります。なお、冒頭に申し上げましたように、本日の議事につきましては会議録を公表いたしますので、ご発言の皆様には、後日会議録の内容をご確認いただきたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

それでは、最後に深津区長からご挨拶申し上げます。

深津： 閉会にあたりまして、一言お礼を申し上げたいと思います。委員の皆様には貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。頂戴いたしました意見については、今後の区政運営に生かしてまいりたいと考えております。また、冒頭にも申し上げたように、今期でご退任されます委員の皆様につきましては、長きにわたり区政運営にご尽力賜りまして厚く御礼申し上げたいと思います。今後も大阪市政、福島区政にご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。一方で、来期も区政会議委員にご就任いただけます皆様におかれましては、引き続きお力添えを賜りますよう改めてよろしくお願い申し上げます。

最後に一言なんです。大阪・関西万博の関係ですが、マスコミなどで準備の遅れ等々、いろいろ言われておりますが、大阪市としてはこれから盛り上げに向けて今後も全力で取り組んでまいりたいと考えておりますので、皆様のご理解、ご協力を引き続きお願いしたいと思います。

本日は長時間にわたりましてありがとうございました。皆さんお気をつけてお帰りいただきたいと思います。どうもありがとうございました。

谷口： それでは、これもちまして本日の市民協働部会を終了させていただきます。皆様、長時間ありがとうございました。